会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （３）職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通的基盤整備の推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回共通基盤整備事業実施委員会 |
| 開催日時 | 令和3年8月25日（水）　10時00分～12時00分 |
| 場所 | オンライン開催 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾  委　　　員：五十部　昌克、岡村　慎一、松田　義弘、山根　大助、  増子　卓矢、谷　昌一、川越　浩　　　　　　　　計8名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計9名 |
| 議題等 | 1. 自己点検・評価モデルの検証調査について（五十部）   (1)検証調査シートの試行結果指摘事項  　・回答の所要時間は30分から1時間ぐらいと思われるので、アンケートについてあまり負担無くご協力いただけるのではないか。  　・ラジオボタンが一度チェックすると消せない。  ・M列入力時の取り消し方法がわからなかった。  ・Q列R列の False 表示は、K列L列のチェックボックスのチェックを外した時の仕様か。  →ご指摘のとおり。集計時には「TRUE」のみをカウントする。  ・今回の調査は検証であるため、回答シートにいただいた質問内容へのご意見については、アンケートの回答をいただいた後に修正を検討する。  　【他意見等】  ・回答が難しい項目があった。例えば第2章の理事会の議事録の保存の有無など。かなりボリュームがあると感じた。（松田）  →各法人で章の分担などで対応いただけると良いと考えている。（五十部）  ・自分がどのカテゴリーに該当するかで評価する項目が変わってくるが、項目が多いので自分の項目が色分けなど視覚的に分かるような仕組みがあると良いと感じた。（谷）  →利用の手引き作成のためのアンケートになるので、各認証機関のカテゴリー項目についてはあまり掲載せず、各認証機関に確認を促すようにしようと考えている。なので、S・Q・Jの項目にグレーで色付けなどをして回答不要としても良い。また、「利用の手引き」と各校の「自己点検評価シート」を準備いただき、そこから必要な項目のみ回答していただくようにしようと考えている。（五十部）  ・他特に問題なし。（増子・川越）  (2) 共通的評価基準モデル2021に対する検証調査アンケートダウンロード先HPについて  　・アンケートのご案内はメールもしくは書面とするが、その後このHP に誘導し、シートのダウンロードをしていただくようにする。  　・アンケートの流れ、検証調査アンケートのダウンロード方法、検証調査アンケートの回答方法、アンケートの提出方法についての説明を記載。  ・検証調査アンケートの回答方法の説明内で、ラジオボタンの取消方法などを説明している。  ・「利用の手引き」内でカテゴリーごとの回答項目が記載されているが、さらに色分けなどで分かりやすく、またS・Q・Jについては回答不要とし、各認証機関のヒアリングの際に確認したいと考えている。  【意見等】  ・いろいろな方に見てもらうという意味では良いと感じる。検証もそうだが、今後このモデルを利用する人向けに色分けがあると良いと考えている。（谷）  ・カテゴリー項目の一覧について追加説明が必要。その上でA・B・Cについて審議していただくようにすると分かりやすいのではないか。また返信先については事務局にしたほうが良いという話だったかと思う。（岡村）  →案内文に説明を追加する。（五十部）  →調査依頼対象、返信先、問い合わせ方法を明確にしていただければ調査依頼対応をする。（飯塚）  ・利用の手引き内に誤字（視点→支店になっている）がある。（谷）  →修正する。（五十部）  ・自校と一致していないが変更を求めない場合は両方空欄になるので、それでいいのか気になる方もいるのではないか。（山根）  →両方チェックの場合もある。回答方法の説明に追加する。（五十部）  ・「利用の手引き」はアンケートに対するものか、最終的な評価モデルをする際のものか分かりづらい。（飯塚）  →「自己点検・評価モデル2021抜粋版」に変更する。（五十部）  ■決定事項  問い合わせ方法は案内HPに記載、調査依頼対象は全専研会員とし、去年回答いただいた学校に重ねて依頼（依頼は富山事務局から）、返信先はアンケートの仕様を文科省に申請し、昨年と同様学校法人有坂中央学園内宛とする。問い合わせ先は富山事務局の富山事務局とする。（五十部）   1. 第3者評価機関への調査と学内監査・推進者育成プログラム調査（五十部）   (1)第三者評価機関への実態調査、学内監査・推進者育成プログラムの項目について、内容についてどうか。  →特に問題なし。（全員）  (2)調査スケジュール、方法について、9月中旬：各機関窓口連絡、協力依頼（依頼文）、9月下旬：調査時期について各機関と日程調整（調査日確定後、調査メンバー確定）、10月初旬～11月初旬：各機関へ調査訪問、並行して調査集計/報告書作成、11月中旬：第3回実施委員会→調査結果を報告/モデル開発方針案、11月下旬：第2回運営委員会→調査結果を報告/モデル開発方針案報告を考えている。新型コロナの感染状況によりオンラインでの調査を検討することとなる。  【意見等】  ・方法については本プロジェクトで取り決めされている開催方針によるが、調査内容から見てオンラインで十分に調査ができるかどうか。調査に行く人数を減らすなど対応ができないか。（高岡）  →調査対象地域である東京の現在の状況はひどい。緊急事態宣言が出ているエリアには政府からリモートの指示が出されているので、対面開催は文科省の委託事業として好ましくないと考える。調査場所をこちらから提供するなど感染対策が確保できるように調整も必要だが、感染状況・ワクチンの接種状況を見て、時期をずらして対面開催を検討したらどうか。（飯塚）  →先方から対面開催に際してワクチン接種やPCR検査などの条件が提示された場合はどうか。（五十部）  →文科省に確認はするが、費用のかかる条件が出された場合は、政府の方針から考えても対面にこだわらなくていいのではないか。成果物作成・完成のスケジュールは2月開催予定の成果報告会を最終期日として考えれば良い。（飯塚）  ・調査メンバーについては、依頼文を作成後、調査対象機関と日程調整し、私（五十部）と他参加可能な委員メンバー1～2名で調整する。（五十部）  ・調査依頼に関しては、調査によって開発する成果物ができるのか、また調査内容が成果物にどう反映されるのか十分な説明が必要と感じる。カテゴリー別の項目数で評価内容や学校の対応のしやすさを判断されると不利になる場合もある。（高岡）  →調査機関5か所は昨年度の調査結果から抽出している。現時点での調査機関の比較表を作成するが、各機関の特徴を掲載し、そこで一種の宣伝効果があると考える。また項目が多いと回答がしやすいというメリットもある。項目数の一覧表だけではなく、各機関にとって過不足の無いように情報を収集し比較表に反映したい。（五十部）  →専門学校の第三者評価の推進を目的としているので、第三者評価を始める学校に対して各機関の特徴・特色を提供して選択してもらえる情報が提供できればと考える。（岡村）  →調査対象機関に対して、対象機関の担当の方に集まってもらい、調査についての説明をする機会を作ったらどうか。対象機関の意識の統一化が図れると良い。（飯塚）  →文科省の委託事業なので、文科省に参加いただけると対象機関の理解度も上がると考える。（岡村）  ■決定事項  文科省に同席いただく方向で調査についての説明会（オンライン）を開催することとする。文科省・関口先生への打診後、対象機関に打診し日程調整をする。打診の担当は岡村先生。調査対象機関と日程調整後、私（五十部）と他参加可能な委員メンバー1～2名で担当を調整する。（五十部）   1. スケジュール（五十部）   ・第3回実施委員会…10月22日（金）13:00～15:00（対面開催予定）  内容は自己点検・評価モデルの検証調査結果共有、方向性について。  場所は10月上旬に決定するが、新型コロナの感染状況によりオンライン開催への変更を検討する。 |
| 配布資料 | ・資料1：令和3年度共通基盤整備事業第2回実施委員会  ・資料2：【集約版】自己点検・評価表モデル検証シート\_案20210817  ・資料3：委員からのご指摘\_20210824  ・資料4：自己点検・評価表モデル検証シート\_Yg20210822  ・資料5：共通的評価基準モデル2021の利用手引き\_(抜粋)rev03a  ・資料6：自己点検評価標準モデルの検証アンケート協力依頼書（共通基盤整備事業）\_20210825  ・資料7：（再掲）第三者評価を実施している機関へのヒアリング調査について\_IsYg20210802  ・資料9：（再掲）学内監査・推進者育成プログラム作成のためのヒアリング |

以上